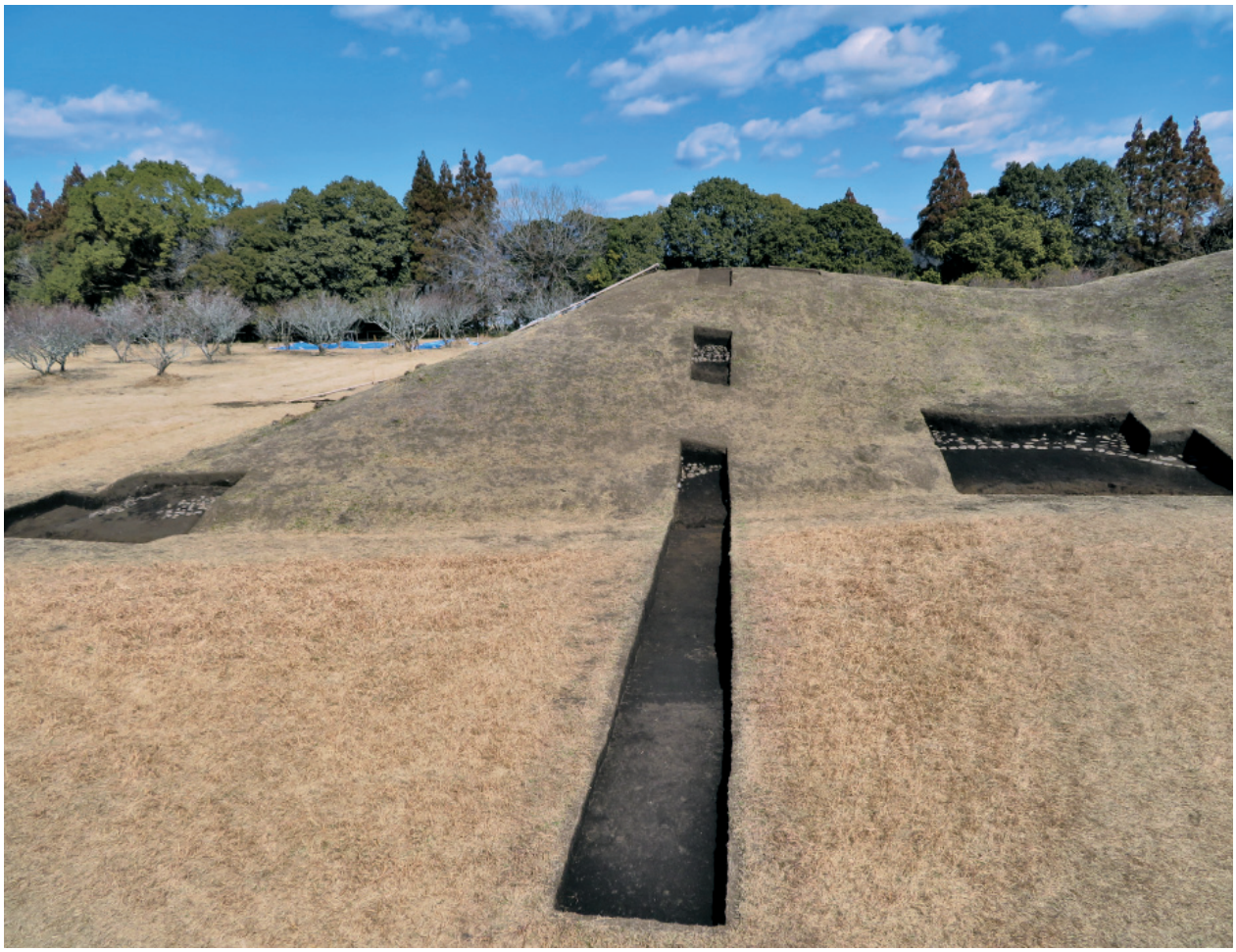
特別史跡

西 都 原 古 墳 群

発掘調査･保存整備概要報告書(XIX)



2017. 3

宮崎県教育委員会

例　　言

1．本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群調査整備活性化事業」の平成28年度事業概要報告書である。
2．発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3．発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
　西都原265号墳：宮崎県西都市大字童子丸字新立674番・675番（発掘調査）
　西都原171号墳：宮崎県西都市大字三宅字丸山5328番（保存整備）
4．本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸普及担当主査 堀田孝博が担当した。
5．発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目　　次

第Ⅰ章　発掘調査及び整備の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　既往の整備事業
　第２節　西都原古墳群調査整備活性化事業
第Ⅱ章　西都原265号墳の発掘調査　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第Ⅲ章　西都原171号墳の保存整備　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

第Ⅰ章　発掘調査及び整備の経緯

第１節　既往の整備事業

西都原古墳群は、1912（大正元）年から1917（同６）年にかけて、我が国最初の古墳の学術的・組織的調査が実施された後、1934（昭和９）年５月１日に国の史跡に、1952（同27）年３月29日には、特別史跡に指定された。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万㎡に及んでいる。そして、1966（昭和41）年から1969（同44）年まで、最初の『風土記の丘』として整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から1993・1994（平成５・６）年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、1994年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき1995（同７）年度より新たな整備事業に着手している。

1995（平成７）年度から2002（同14）年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（1997（同９）年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、2003（平成15）年度から2007（同19）年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事などを実施し、2008（同20）年から2013（同25）年度には「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の事業名で、46・47・201・202・284号墳の発掘調査や46・47・202号墳の墳丘復元工事などを実施した。

第２節　西都原古墳群調査整備活性化事業

宮崎県教育委員会では、2013（平成25）年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、2014（同26）年度より標記事業に着手している。

当該事業は、西都原古墳群における発掘調査・整備保存が果たした学術的・文化的・社会的役割を踏まえつつ、古墳群を保存・継承していこうとする機運の醸成、歴史と文化を活かした魅力あるまちづくりなど地域の活性化を促進するもので、発掘調査や調査終了古墳の整備保存のほか、これまでに整備が終了した古墳の再整備なども計画している。

2016（同28）年度は265号墳の発掘調査を継続し、前方部における墳丘規模や構造、二重目の周溝の規模や形状等の確認を行うとともに、1917（大正６）年の発掘調査（第６次調査、以下では大正調査（第６次）とする）における前方部調査坑の再発掘を実施した。また2000（平成12）年度～2001（同13）年度に一部の葺石を露出した形での整備を実施した171号墳について、保存に軸足を移した再整備として盛土・芝張りを実施した（第１図）。

第Ⅱ章　西都原265号墳の発掘調査

265号墳は「船塚」の通称で知られており、西都原台地最北端のグループである第３支群に位置する唯一の前方後円墳である。大正調査（第６次）では、後円部墳頂から変形十字文鏡１、碧玉製管玉19、鉄刀３、鉄鉾１、刀子２、鉄鏃多数が出土した。また、前方部にも調査坑が設定されているが、遺物等は出土しなかったとされる。

2014（平成26）年度の調査では、主として後円部における墳丘の規模や構造、周溝の有無や形状等の確認、後円部大正調査坑の位置や規模を把握するためにトレンチを設定した（トレンチ１～10)。調査の結果、墳丘一段目・二段目ともに葺石が残存すること、墳丘の東側から北側にかけて周溝が存在することを確認した。墳頂部では、後円部大正調査坑のプランを一部検出し、精査の過程で碧玉製管玉１点が出土した。また、左くびれ部には造り出しの存在を確認した。造り出しの側面には葺石が施されており、上面で土師器高杯等の破片が出土した。

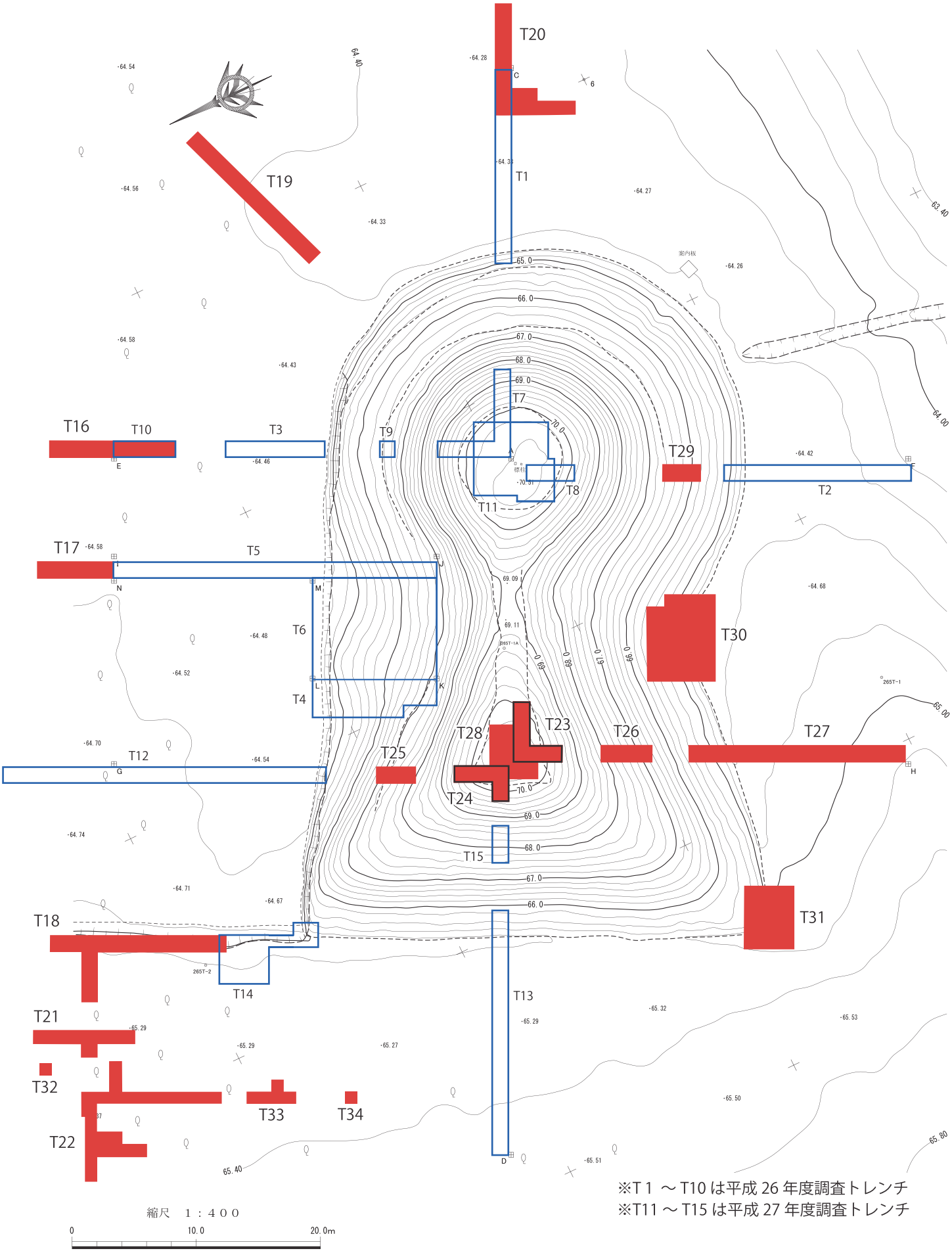
2015（平成27）年度の調査では、前方部において墳丘の主軸およびそれに直交する方向でトレンチを設定した（トレンチ12～15)。また後円部大正調査坑の全面検出を目指し、後円部墳頂にもトレンチを設定した（トレンチ11)。各トレンチについて掘り下げを行った結果、前方部にも墳丘一段目・二段目の葺石が残存すること、墳丘西側にも周溝がめぐることが判明した。後円部大正調査坑についても検出されたプランに沿って掘り下げたところ、大正調査終了時に埋設された碑石が出土したほか、玉類、鉄製武器類の破片も少量ながら見つかった。

2016（平成28）年度の調査では、二重目の周溝の規模や形状を確認するためにトレンチを設定し（トレンチ16～22・32～34)、二重目の周溝が主として墳丘北側に巡ることが明らかとなった。また、前方部の墳丘から墳裾にかけて設定した各トレンチ（トレンチ25～27・31）や右くびれ部に設定したトレンチ（トレンチ30）では、すべてのトレンチで基底石を検出した。前方部墳頂に設定したトレンチ（トレンチ23・24・28）では前方部大正調査坑を検出できたため、それを掘り下げたところ２点目の碑石が出土した。

第Ⅲ章　西都原171号墳の保存整備

171号墳は女狭穂塚の南西側に隣接する方墳で、1912～1913（大正元～２）年に実施された大正調査（第１次）の際に濱田耕作と柴田常惠によって発掘調査が行われた。また、1998～2000（平成10～12）年度には保存整備に伴う発掘調査が実施され、二段築成の墳丘斜面部に葺石が良好な状態で残存していることが確認された。そのため整備工事については、葺石の遺存状態の良さや墳丘形状を見学者に伝え、女狭穂塚の陪塚としての関係性を理解してもらうために、より積極的な手法として、南東側・南西側の二面について葺石の露出や周溝の復元、復元埴輪の設置などを実施した。整備施工後10年が経過し、所期の目的は概ね達成できたと判断したため、盛土・芝張りによる保存に軸足を移した再整備を行うこととなった。

第１図　発掘調査・復元整備古墳の位置図



※T１～T10 は平成 26 年度調査トレンチ
※T11～T15 は平成 27 年度調査トレンチ

第２図　西都原265号墳トレンチ配置図（S=1/400）

写真１　265号墳トレンチ１・20全景（東から）

後円部側の主軸上に設定したトレンチ。西端部付近はトレンチ１の再発掘。二重目の周溝を検出したが、鬼界アカホヤ火山灰の下層部まで達する削平のため残存状態は悪く、地表下約45㎝で底面となる。南側に拡張した部分で周溝端部を検出した。

写真２　265号墳トレンチ19全景（北東から）

後円部中心から45°の角度で設定した。トレンチ20と同様に削平の影響で残存状態は良くないが、周堤帯の基底部幅は約3.3mを測る。二重目の周溝は幅約5.8mで、地表下約45㎝で底面となる。

写真３　265号墳トレンチ10・16全景（北東から）

2014（平成26）年度調査のトレンチ10を再発掘し、トレンチ16と接続した。二重目の周溝はこの付近が最も広く、幅約8.0mを測り、地表下約75㎝で底面となる。

写真４　265号墳トレンチ21・22全景（北東から）

前方部左隅角の北西方に設定したトレンチ。これらのトレンチにおいて二重目の周溝が屈曲する部分を検出した。

写真５　265号墳トレンチ29葺石検出状況（南から）

後円部二段目の基底石を検出した。基底石はこれまでに確認された中で最も小さい。トレンチ中間付近で検出された礫のあたりで傾斜が変わっており、この付近まではテラスの平坦面が残っていると考えられる。

写真６　265号墳トレンチ25葺石検出状況（北東から）

前方部二段目の基底石を検出した。基底石は縦向きに埋め込まれている。葺石の密度は低くまばらであるが、区画列石と考えられる箇所も確認できる。

写真７　265号墳トレンチ26葺石検出状況（西から）

前方部二段目の基底石を検出した。基底石は縦向きに埋め込まれるが、一部に乱れがある。葺石もまばらで区画列石もかなり乱れている。

写真８　265号墳トレンチ30全景（南西から）

右くびれ部に設定したトレンチ。基底石には大ぶりな石材を用いており、前方部（画面左方向）から後円部（画面右方向）にかけてなだらかなカーブを描いている。

写真９　265号墳トレンチ31全景（南西から）

前方部右隅角に設定したトレンチ。後世の撹乱により原形を保っていないが、前方部前面側（画面左方向）の基底石はその一部が残存している。

写真10　265号墳トレンチ28全景
（東から）

前方部墳頂で検出された大正調査坑を掘り下げたところ、前方部のほぼ中心で大正時代に埋設された碑石が出土した。碑石は大ぶりな円礫10点で被覆されており、後円部の碑石と同様の状態であった。

写真11　265号墳トレンチ28全景
（東から）

被覆礫を取り除き、碑石を検出した状況。一つの古墳に２点の碑石が埋設されていた例は、現時点では唯一である。碑石には調査日時、担当者、前方部の調査成果が刻まれていた。

写真12　171号墳の工事状況
（南東から）

葺石を露出した形で整備していた南東側・南西側の二面について、盛土・芝張りによる再整備を実施した。

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき　さいとばるこふんぐん　はっくつちょうさ・ほぞんせいびがいようほうこくしょ
書名	特別史跡　西都原古墳群　発掘調査・保存整備概要報告書
副書名	
巻次	XIX
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	堀田孝博
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）
所在地	〒880-0805　宮崎県宮崎市橘通東１丁目９番10号 （〒881-0005　宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670）
発行年月日	2017（平成29）年３月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
さいとばる265ごうふん 西都原265号墳	さいとしおおあざどうじまるあざしんたて 西都市大字童子丸字新立674番・675番	45208				2016.11.22 ～ 2017.3.31	248㎡	史跡整備関連

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古墳	古墳	前方後円墳（葺石・周溝）	須恵器・弥生土器 縄文土器・石鏃・石錘・陶磁器	大正調査坑の再発掘を実施 二重目の周溝を確認

特別史跡　**西都原古墳群**　発掘調査・保存整備概要報告書（XIX）

2017年３月31日

発　行　**宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）**

〒880-0805　宮崎県宮崎市橘通東１丁目９番10号

（〒881-0005　宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670）

印　刷　**株式会社 エスアイエス**

〒880-0852　宮崎県宮崎市高洲町50-4